



デンタルクレンリネスの 基本

クレンリネスの3ポイント

Dry

乾燥状態を維持する。
濡れた物はできる限りすみやかに拭く。
※水あか・サビ・細菌の繁殖を防ぐ

Shine

元々ツヤがある、光っているものは光らせる、
ツヤを維持する。
※「汚れていない」だけでは清潔感があるようには見えない。

Orderly

できるだけモノは少なく。
整理整頓を継続、向上させ続ける。

3分担（チェックを効果的にする）

- A、自分たちで解決する事
- B、修理または交換で解決する事
- C、外部に依頼して解決する事

チェックをするときは
この3つの視点で。

清掃の基本

汚れを除去しようとするとき、

まず硬いものでこする。

とにかく洗剤をかけてこする。

やみくもにこのような事をしていくと。

時間がかかる、素材を傷める、汚れを完全に取り切れない、

という事が起こりやすく全く合理的ではありません。

そのような考え方、方法はしないようにしましょう。

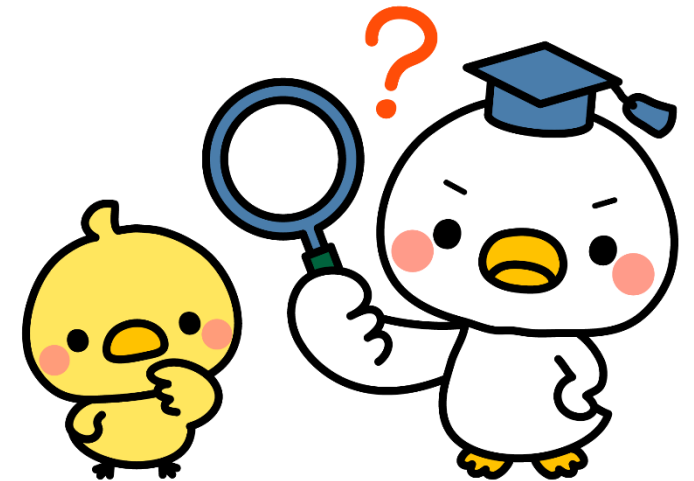
清掃は科学です。

汚れの種類、汚れの性質を知り、それに合った対応をする事で

速く、きれいに、素材を傷めずに汚れをなくす事ができます。

適切に汚れをなくした表面に対して初めて、

消毒の効果を最大化する事ができます。



汚れの種類に応じた対応をする。

- **乗っているだけの汚れ**（乾燥した汚れ）
- **貼りついた汚れ**（乾燥する段階で貼りつき除去しにくくなったものまたはテープなど）
- **粘着した汚れ**（化学変化や乾燥で対象物と一体化したもの）
- **固着物**（素材上で硬化し、分解・溶解できないもの）
- **着色**（対象物表面に乗っているがしみ込んでいるように見えるもの）

乗っているだけの汚れ

乾燥した状態で床や器材、家具表面に落ちて来て乗っている物です。
ホコリや毛髪、粉じん類がこれに当たります。
空気の流れで移動します。

対処法

- A 吸引する・・・掃除機など。
- B 吸着する・・・ハンディーワイパー
マイクロファイバークロス

NG

- A 濡れたもので拭く。
その下の汚れも同時に拭き取る意味を含めたい事もわかりますが、ホコリが濡れて素材表面に貼りつき取れにくくなります。

貼りついた汚れ

付着したホコリやゴミなどが空気中の水分を吸収して乾燥し、こびりついたもの。

この段階で洗剤を使ってしまうと、必要以上に清掃に時間がかかってしまいます。
汚れの段階を見極める目を養い、汚れをこの段階までで押さえておくと清掃がラクにできます。

対処法

- マイクロファイバークロスで水拭き
※対象面がゴムパッキンなどの場合
アルカリクリーナーを使用すると
すばやくキレイに除去できます。

粘着した汚れ

歯科医院では、手あかなど人の体からの汚れ、空気中の粉じん、衣服などのスレによる汚れなどが多く発生します。

これらは“酸性、汚れであることが多い。そのため対処法は以下のようにになります。

対処法

- 1, マイクロファイバークロスで水拭き
※これでほとんどの汚れは取れます。
- 2, 弱アルカリ洗剤を使う
 - A マイクロファイバークロスにつけてやさしくこする。
 - B 洗剤を塗るまたはスプレーし、クロスやスポンジなどでこする。



固着

セメント・仮封材・仮着材

研磨・・・サンドペーパー、コンパウンドなど。

石膏

酸性洗剤反応時間置きで溶解します。
その後ブラッシングで除去可能です。

着色

サホライド

サホライドクリーナー。
陶器面の場合、研磨で除去可能。

歯垢染色液

界面活性剤入りの次亜塩素酸ナトリウム系漂白剤。
キッチンハイター、ドメストなど。

院内で発生する汚れを分類しましょう。

種類	箇所
乗っている汚れ	
貼りついた汚れ	
粘着した汚れ	
固着物	
着色	

ポイント



いろいろ試すそのまえに！！

- まずマイクロファイバークロスのようにそれ自体が汚れをかき取る性能のある物で水拭きしてみる事が第一です。
- それで多くの汚れは除去できます。
- その方法でも汚れが残った場合にクリーナーを使う事になりますが、早く汚れを落としたいと、クリーナーを高濃度で使うのは素材を傷めたり、クリーナーの使用量が増えたりするデメリットがあります。
- クリーナーを適切に使うために次の手順を試してください。

拭きそうじが基本。

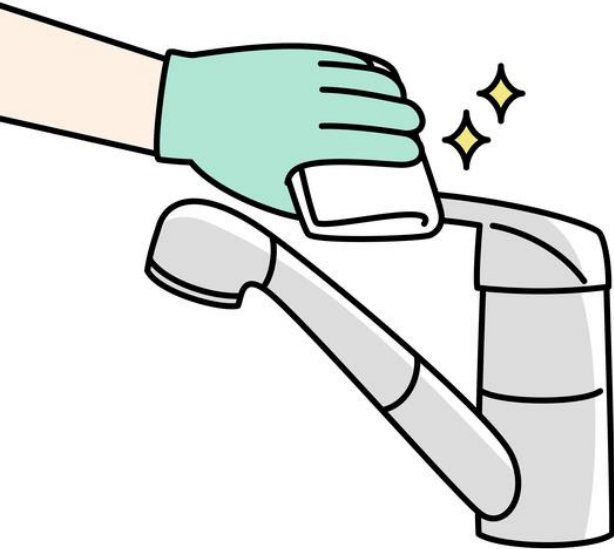
拭く作業はクレンリネスの基本です。

ほとんどの汚れは拭くことで解決します。

この汚れにはどんなクリーナーを使えばいい？と考える前に

マイクロファイバークロスを水で濡らし、固く絞って拭きましょう。

壁のクロス汚れもシンクの汚れも拭き清掃でほとんど解決します。



拭いた後に汚れが残った場合に、残った汚れの原因を考え、

汚れの種類と性質を想像してまずは弱アルカリクリーナーを反応させて拭き取る。注)

そしてその工程と結果を記録し繰り返し、スタンダードにする。

この基本を習慣にすれば、「キレイをキープする」ことはとても簡単になります。

注) 一般環境の例。水回りは酸性クリーナーまたは研磨剤となります。

清掃は汚れの性質に合ったものを使う。

環境全般

弱酸性

人の体から発生する汚れ

皮脂、髪の毛など。油汚れ、カビ。

主に中性やアルカリ性の洗剤と反応（中和）

有機物

水回り

弱アルカリ性

カルシウムなどのミネラルが凝固した汚れ。

水垢（スケール）、尿石、エフロなど。

主に酸性の洗剤と反応（中和）

無機物

洗浄剤は時間・温度、そして濃度。

時間

汚れが洗剤に
反応時間を取る。

湿布・浸漬など



温度

洗剤の温度を上
げて洗剤成分
の活性化をする。

温水で希釈



洗剤濃度

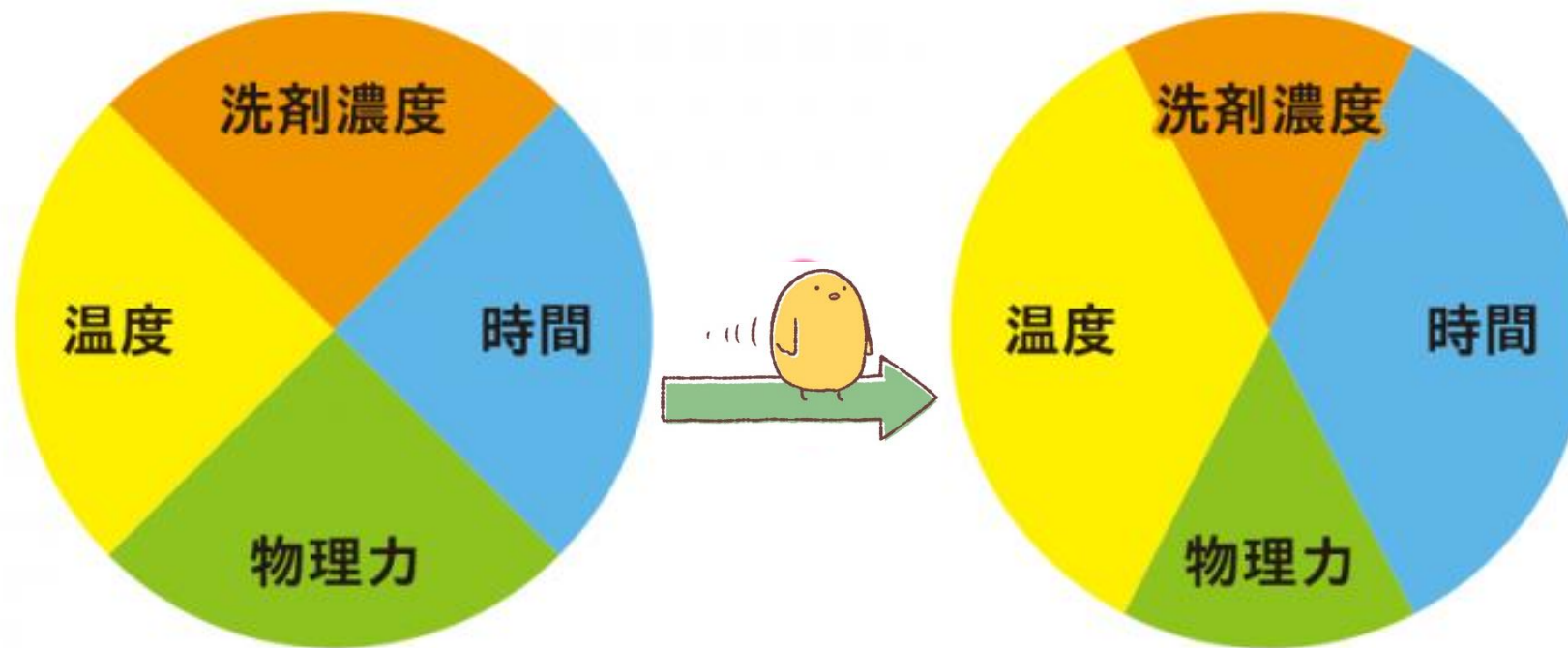
洗剤の濃度を上げ
てみる。

**素材を傷める可
能性あり**

物理力

摩擦などの
物理力で取り除く
効果。

最後の手段



汚れは「4要素」をバランスよく活用して除去します。

4要素とは「洗剤の濃度」「時間」「物理力」「温度」でこの割合を変えることで汚れを落とす事がラクになります。

「まず初めに、激落ちくんでこすってみる」これは手間がかからない事を最優先した方法ですが、その方法でうまくいく事は数少ないでしょう。

また対象面を傷つける可能性が高く、とても合理的な方法とは言えません。

【解説】

1, 反応時間を長くしてみる。

クリーナーによる汚れの分解は化学反応です。汚れによってまた汚れがついてからの経過時間によって反応時間は違います。クリーナーを塗って5分おいてから拭いてみる、10分おいてみる、などを試すと、汚れに対してクリーナーが反応する時間がわかり、有効な使い方がわかります。

2, 温度を上げてみる。

クリーナーが最も活性化する温度があります。一般的に、クリーナーの温度が1℃上がれば反応が10%上がると言われています。

3, 濃度を上げてみる。

濃度が上がれば反応の強さが上がりますが、素材を傷める可能性があります。また、そのクリーナーが最も力を発揮する濃度の上限のありますので、最適な濃度を探すという意味での濃度の調整という意味になります。



以上、基本のHow-Toでした。

こんな知識をしっかり身につけて
ひとつひとつ
汚れの落とし方を標準化していきましょう。

そしてその次にやるのが

仕組み化です。



クレンリネスが業務にフィットするために。

重要!

チェック

情報

しくみ(タイミング・担当)

話し合い

目標・理念

記録・共有

**「5年後現在と同じ状態状況を維持できる」
それを目的としたしくみを!**



「クレンリネスの基本」

著作者 小林 宏

発行元 株式会社デンタルクレンリネス研究所

著作権者名 株式会社デンタルクレンリネス研究所

発行日 2022.8.26

©2022 Dental Cleanliness Institute Co., Ltd. All Rights Reserved

この資料は著作権で保護されております。無断複写・転載を禁じます。